

大鰐町商工会行動プラン

～テーマ：会員サービス向上と地域資源活用による事業者の持続的発展への支援～

(1) 商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

○自地域の総括的概要と現状課題

当町の人口は現在約8千人強と人口減少が他市町村よりやや顕著であり、また高齢化も相まって、人口減少率や高齢化率が加速している状況が続いている。産業構造としては、近年は人口減少に伴い全産業で就業者数が減少しており、特に一次産業の減少が大きく、生産額で見ると、現在は三次産業が全体の8割を占めている状況である。当町は温泉地とスキー場を抱え、かつては観光業が主要産業であったが、バブル崩壊後、リゾートブームの終焉と共に観光客は減少が続いている。町では令和5年3月に『地域共生社会の実現』を基本理念として、『今後10年間に於いて全ての町民が「安全・安心」に「健やか」で「心豊か」な暮らしができるまち』を目指すこととした「第6次大鰐町振興計画」を策定している。

○人口動態

人口は、過去20年ほどで約30%(3千6百人余り)減少しており、2045年には約3千6百人まで減少するとの推計がでている。また、高齢化も進み、20年ほどで労働者人口は半数に、65歳以上の割合も約25%から約55%となり、今後も進むことが想定される。

○商工業者や小規模事業者の動向

過去20年ほどで商工業者数は約50%(257者)減少、ほぼ小規模事業者である。国の調査では年率換算で3.2%減となり10年後は185者へ減少する見込みである。

	H13	R3	対比増減	年率換算	R6	R15	R6比
商工業者	532	275	△257	△3.2%	249	185	△64
小規模事業者	435	234	△201	△3.1%	213	161	△52

○その他特記事項

当町は国道7号線とほぼ平行して流れる平川に沿って町が展開している。北に隣接する弘前市や平川市は、町の中心部から10km以内に位置し、両市とも車で30分圏内でアクセスできるため、就業先や日用品・専門品の買い物先として依存している部分がある。

(2) 重点推進施策

○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、会員ニーズにあったサービスの提供を通じ、地元農産物や観光資源を活用した交流人口の増加と地域ブランドの確立を図り、地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献します。

○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・会員サービスの向上による組織基盤の強化(会員増強)
- ・地元農産物や観光資源を活用した地域ブランドの確立
- ・地域資源を活用した新たな体験プログラム開発による交流人口の増加

(3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

支援項目	創業支援	事業承継	経営革新計画	経営力向上計画
現在値	0件	1件	0件	0件
目標値	4件	4件	2件	1件
支援項目	持続化補助金	経営計画策定支援	経営改善普及事業	マル経融資・件数
現在値	0件	4件	1,012件	4件
目標値	6件	11件	879件	5件
支援項目	マル経融資・額	記帳継続指導	記帳機械化	労働保険
現在値	26,700千円	44件	30件	92件
目標値	24,495千円	39件	18件	107件

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

○上記以外の具体的な取り組み

- ・巡回と情報発信の強化
- ・定期的な町担当課及び関係機関との情報交換
- ・平川市商工会との広域連携によるセミナーの開催・個社支援

(4)実施し得る体制(環境)

○あるべき体制

現在、本会は町役場敷地内に位置しており、経営指導員1名、補助員1名、記帳専任職員1名、臨時職員2名の計5名で運営している。

現状の業務をこのまま維持するには、職員数の現状維持が必須である。商工会の財政シミュレーションでは、小規模事業者の減少に伴った会員数の減少により会費・手数料収入の減少が見込まれるものの、むこう10年間は赤字に陥ることはない見通しが得られた。しかしながら、今後の財政基盤の維持には引き続き慎重な管理が求められる。

(5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないため、現事業者支援体制は維持していくが、広域連携や専門家派遣を活用し、引き続き安定した事業者支援体制を確立させる。

(6)特記事項

○町との協調体制の確立と安定的な支援の継続

大鰐町の第6次振興計画にある、商業、工業、観光の各振興策に賛同し、町との連携を深めながら商工会としての各事業の関わり方について理解を求めている。